

ゲストティーチャーによる授業

今の学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。その理由としては、『社会のつながりの中で学ぶことで、子どもたちは自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つことができる。このことは変化の激しい社会において、子どもたちが困難を乗り越え、未来に向けて進む希望や力になります。そのため、これからの学校には、社会と連携・協働した教育活動を充実させることが求められている。』ということです。

実際に経験された方の話を聞くことは、その経験されたことについて、微細なことも含めてよりリアルな話を聞くことができ、生徒たちがより深く考えることができる**貴重な学びの場**となります。今回（9月21日6時間目）は実際に「がん」に罹患され闘病生活を送られた、（株）河合電器製作所の岸田さんをゲストティーチャーとしてお招きして、医療系の進学を目指している3年生の生徒たちが、直接、対面でお話を聞くことができました。

国内における、がん患者の罹患率や生存率といった概要の後、岸田さん自身ががんを宣告された時の心情や、入院を余儀なくされ闘病生活を送る中での心情や状況、**医師、看護師、理学療法士などの医療従事者の患者に対する言葉かけの重要性や影響力**を事細かく写真などの資料も交えながら聞かせていただいた後、質疑応答の時間も設けていただき、生徒たちにとっては自分たちの進路先に関わる貴重な学びの時間となりました。

今後ともこのような「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた教育活動を進めていきたいと思えます。



